

JAPAN KOBE ZEROの軌跡



1. 《白布 400 m》1972年

県美プレミアムⅢ

2017年10月28日(土)ー2018年1月21日(日)

特集展示

絵画のふしぎ

～県美・絵画・名品選～



4. 榎倉康二《Figure-No.35》1984(昭和59)年

県美プレミアム

兵庫県立美術館は、前身の近代美術館時代から数えて約45年にわたり収集活動が続け、現在9,000点を超える作品を収蔵しています。それらは収集方針を反映して、国内外の近代彫刻と版画、日本近代の名作、兵庫ゆかりの作品、関西の現代美術に大別されますが、内容は実に多岐にわたり、一瞥しただけではその総体をとらえきれません。そこで、当館では、1年を3期に区切り、個々に展示のテーマを設けることによって、横断的にコレクションを紹介し、変化に富んだ常設展示をおこなっています。

「JAPAN KOBE ZEROの軌跡」のみどころ

- ・1970年代の前衛グループ、JAPAN KOBE ZEROの活動の全貌がはじめて明らかに。
- ・珍しい写真や映像のほか、図面や準備ノートなど様々な資料を集めて、大公開。
- ・「元メンバーによる座談会」を開催し、レジェンドたちの貴重な声を含めて、JAPAN KOBE ZEROの活動を立体的／多角的に紹介。

「絵画のふしぎ」のみどころ

- ・当館所蔵の絵画の名作100点余を一挙公開。明治初期から現代までのさまざまな絵画表現に触れていただく機会です。
- ・「絵画」を見るポイントを5つの章で構成、いろいろな視点から「絵画のふしぎ」を考えます。

関西文化の日

関西が誇る豊かな文化に気軽に接していただく「関西文化の日」。当館では11月18日(土)・19日(日)に、「**県美プレミアム**」展の**観覧無料**をはじめ、多彩なイベントを開催します。

平成29年度 県美プレミアム

館外作品を中心とした小企画展
小企画「JAPAN KOBE ZEROの軌跡」

収蔵品によるテーマ展
特集展示「絵画のふしぎ～県美・絵画・名品選～」

開催情報

会期：
2017年10月28日[土]ー2018年1月21日[日]

休館日：
月曜日(ただし、1月8日[月・祝]は開館、1月9日[火]は休館)
年末年始(12月31日[日]、1月1日[月・祝])

開館時間：午前10時ー午後6時
特別展開催中の金・土曜日は午後8時まで
※入場は閉館の30分前まで

観覧料金：
一般：500(400)〈300〉円 / 大学生：400(300)〈200〉円 / 70歳以上250(200)〈150〉円 / 高校生以下：無料
※()は20名以上の団体料金 / 〈 〉は特別展とのセット料金
※障がいのある方(70歳以上を除く)は各種料金の半額、その介護の方1名は無料
※一般以外の各種料金の適用には証明書が必要です。
※毎月第2日曜日は公益財団法人伊藤文化財団のご協力により無料で観覧できます。

会場：兵庫県立美術館 常設展示室

主催：兵庫県立美術館
後援：公益財団法人 伊藤文化財団



平成29年度文化庁
文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業

JAPAN KOBE ZEROの軌跡

開催趣旨

本展は、神戸の前衛的な美術グループ、「JAPAN KOBE ZERO」の活動に焦点を当てます。

同グループは、古川清をリーダーとして、榎忠、松井憲作たちによって1970年に結成されました。もともとデッサン教室での活動でしたが、その中から先鋭的な表現を行う動きが生まれました。街中で大規模なパフォーマンスを行ったり、美術の枠を破るような展示を行ったりしました。1975年には兵庫県立近代美術館での「アート・ナウ」に参加し、松の木がピロティから屋上に突き抜けたかのような作品を出品しています。集団での活動ゆえに多彩なアイデアと旺盛なエネルギーが生まれましたが、メンバーの入れ替えもあり、1979年頃に解散しました。

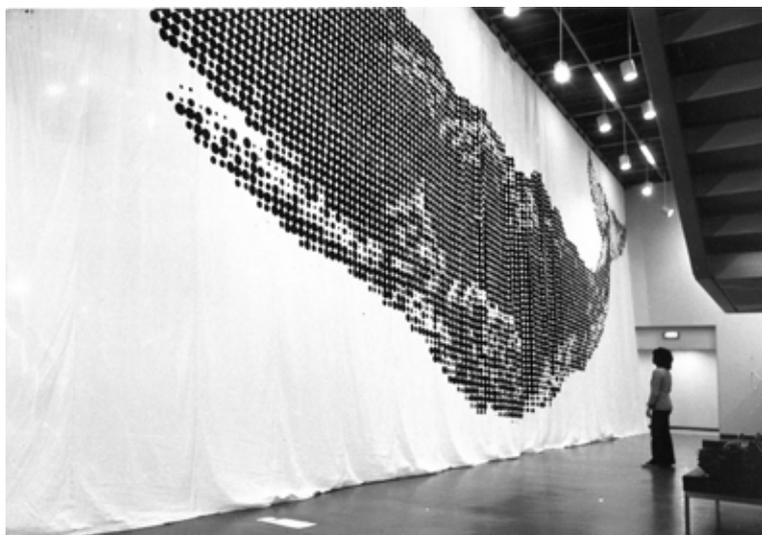
当館はすでに、1965年結成の神戸の美術集団「グループ〈位〉」の展覧会を開催しましたが、本展はそれに続くものです。グループのメンバーからの聞き取りによって主な活動をまとめ、当時の写真や印刷物、展覧会の物件、記事が掲載された雑誌などの資料展示によって紹介します。



2. 《TREE, out-in-out》1975年 兵庫県立近代美術館にて

JAPAN KOBE ZEROの主な活動

- 1970・9 大デッサン展「日本列島への提案」(さんちか広場、神戸)
- 1971・5 イベント「虹の革命」
- 1971・10 「現象としての人間研究所」(さんちかギャラリー)
- 1972・3 「解体と再生」(信濃橋画廊、大阪)
- 1972・5 イベント「白布 400 m²」
- 1972・7 「ふり、ぶり、ぷりぷり」(信濃橋画廊、大阪)
- 1972・9 第3回研究所展(さんちかギャラリー)
- 1973・2-3 京都アンデパンダン展(京都市美術館)《人間狩り機》出品
- 1973・5 イベント「イメージの箱」
- 1973・7 「ZERO ART TANK」(信濃橋画廊、大阪)
- 1973・8 1973 京都ビエンナーレ 集団による美術(京都市美術館)《SPACE 400cbm.》出品
- 1974・6 イベント「FLYING SILVER CLOTH 250 m²」(神戸港第3突堤)
- 1974・7 '74ZERO 研究所展(兵庫県民会館 2F 展示室)
- 1975・1 アート・ナウ'75(兵庫県立近代美術館)《TREE,out-in-out》出品
- 1975・2-3 京都アンデパンダン展(京都市美術館)《JOINT PROJECT No.2 8 period in the Museum》出品
- 1975・5 「仮称 Exhibism -方法から方法へ-」(神奈川県民ギャラリー、横浜)《まっこうくじら》出品
- 1976・6 「HARVEST」(信濃橋画廊、大阪/氷上郡、兵庫)
- 1977・3 京都アンデパンダン展(京都市美術館)《クロス》出品
- 1977・1 ZERO 研究所展(美専堂画廊、神戸)
- 1978・3 20年を迎えた京都アンデパンダンの方向(京都市美術館)《作品(B)》出品
- 1979・3 京都アンデパンダン展(京都市美術館)



3. 《まっこうくじら》1975年 神奈川県民ギャラリーにて

関連イベント

■学芸員によるギャラリートーク

11月19日(日) 16:00～(約45分)
 展示会場にて(エントランスホール集合)
 参加無料

■元メンバーによる座談会

11月26日(日) 14:00～(約120分)
 レクチャールームにて(定員100名) 聴講無料

特集展示

絵画のふしぎ

～県美・絵画・名品選～

開催趣旨

本年度第3期の県美プレミアムでは、「絵画のふしぎ～県美・絵画・名品選」と題し、当館所蔵の日本近・現代絵画を中心に展示します。

目の前の現実を再現しようとしたものから、虚構の世界や観念を描いたもの、「何か」を描くのではなく絵画そのもののあり方を問うたものまで、古今の画家たちは絵画という二次元のメディアでさまざまな表現を行い、その可能性を追求してきました。特集展示では、絵画をめぐるふしぎを、主題表現、技法、素材、視点といった観点から考えます。



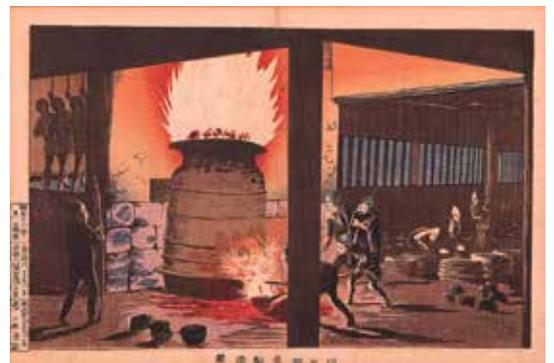
5. 神中糸子《はるの像》1894（明治27）年頃

展示構成

第1章 あたかもそこにあるかのように

明治以降、本格的に日本にもたらされた西洋絵画はその迫真性により、日本人の絵画に対するそれまでの見方を大きく変えました。明暗法による巧みな質感描写、遠近法を駆使した空間表現、油絵具による鮮やかな色づかい等によって、対象を写実的に描写した絵画に大きな衝撃を受けた画家たちは、油彩画の技術、技法の習得につとめました。以降、日本の近代絵画は写実＝リアリズムを軸に展開していきます。

この章では、洋画の技術を習得し、日本近代絵画の礎を築いた画家たちの「写実」への取り組みを紹介します。



6. 小林清親《川口銅釜製造図》1879（明治12）年



7. 鴨居玲《トランプ》1969（昭和44）年

第3章 開かれた窓

絵画はしばしば世界を眺めるための窓にたとえられてきました。開かれた窓は視界を一定の大きさの矩形に切り取り、その向こうに広がる光景を縁取る額縁の役割を果たすからです。ここでは、文字通り「窓」から見た風景を描いた風景画をはじめ、空間の広がりや巧みに描き出した風景画や室内画を展示します。

第2章 再現から表現へ

「芸術は自己の表現に始まって、自己の表現に終るものである」（夏目漱石『文展と芸術』1912年）

20世紀初頭、明治末年から大正にかけて、新しい動きが起こります。後期印象派などの西洋の新思潮に影響を受けた画家たちが、対象の再現という課題から一歩踏み込み、人間の内面に眼を向けるようになりました。画家たちはそれぞれの「個性」や「自我」を絵筆に託して描き出そうとしました。絵画は「再現するもの」から「表現するもの」へと転換を遂げます。

この章では、同時代の西洋美術の新思潮を摂取しつつ、一個の画家として、日本人の画家として、そのアイデンティティを絵画表現の中に追求した画家たちの作品を紹介します。



8. 佐伯祐三《神戸風景》1927（昭和2）年



9. 池田永治《まど》1934（昭和9）年



10. 白髪一雄《猪狩(弐)》1963(昭和38)年

第4章 かげ、あと、しるし、もの

絵画の起源はどのようなものだったのでしょうか。ナルキッソスの神話に象徴されるような（水に映る）影、何かの痕跡、何かを指し示す記号、絵画それ自体を成立させている絵具や支持体といった物質—いずれも絵画の根源を問うとき、そして絵画の可能性を探るうえで重要な要素であるといえます。この章では、1950年代以降の絵画作品の中から、絵画のありようを問い続けた作家たちの作品を紹介します。

第5章 何がどう見えている？

人はものをどのように見ているのでしょうか。「見る」ことは動き回る眼によるさまざまな視点、見るという行為の持続から成り立っており、「空間」と「時間」の中にあります。視点を固定し、ある瞬間を切り取った「視覚」は、「見ること」の一断片にすぎません。この章では、ものを見ること、それ自体を問いかけた作品を展示します。



11. 山口勝弘《ヴィトリヌ「静かな街」》1956(昭和31)年



12. 斎藤智《無題 75-B》1975(昭和50)年

小磯良平記念室

神戸生まれの小磯良平（1903-1988）は、近代洋画を代表する巨匠のひとりです。優美で気品のある人物画は、現在も私たちを魅了します。《T嬢の像》や《洋装する女達》などの人物画の名作に加え、小磯の卓越した構成力が伺える静物画や風景画をあわせて展示します。

金山平三記念室

神戸に生まれた金山平三（1883-1964）は風景画家として知られていますが、優れた人物画、静物画も多く描きました。今回の展示では、金山の人物画、静物画を中心に展示し、風景画家とはまた違う金山の魅力に迫ります。神宮外苑にある聖徳記念絵画館の壁面の画稿のほか、軽やかなタッチで描かれた瑞々しい静物画を紹介します。

近現代の彫刻／安藤忠雄コーナー（展示室5）

当館は、版画とともに彫刻を収集の柱のひとつに据えてきました。展示室5では、ロダンに始まる近代から現代にかけての彫刻の名作を紹介します。

また、当館の設計者である建築家・安藤忠雄氏の業績の一部を模型、写真、映像などで紹介するコーナーを展示室東側に併設します。



13. 金山平三《女の肖像》1932（昭和7）年

関連イベント

- 1 シンポジウム「過去の現在の未来2 キュレーションとコンサベーション その原理と倫理」
11月23日（木・祝） 午後1時30分～5時
兵庫県立美術館 ミュージアムホールにて（定員250名）
主催 京都市立芸術大学 芸術資源研究センター、國府理「水中エンジン」再制作プロジェクト実行委員会、兵庫県立美術館
※詳細はHPをご覧ください
- 2 学芸員によるギャラリートーク
11月11日（土） 午後4時～（約45分）
展示会場にて（エントランスホール集合） 要プレミアム展の観覧券
- 3 ミュージアム・ボランティアによるガイドツアー
会期中の金・土・日 午後1時～（12月29日（金）、30日（土）は除きます）
- 4 こどものイベント「え？それも絵？これも絵？おもしろい絵！」
11月18日（土）、19日（日） 午前の部11時～12時30分、午後の部1時～3時
アトリエ2にて 事前申し込み不要 入退場自由 ※詳細はHPをご覧ください

お問い合わせ先

兵庫県立美術館
 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
 TEL: 078-262-0901 (代表)
 FAX: 078-262-0903
<http://www.artm.pref.hyogo.jp>

取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ
 TEL: 078-262-0905 (グループ直通)
 FAX: 078-262-0903

展示内容に関すること

小企画「JAPAN KOBE ZEROの軌跡」
 担当学芸員：出原均
 e-mail: dehara.h@artm.pref.hyogo.jp
特集「絵画のふしぎ ～県美・絵画・名品選～」
 担当学芸員：飯尾由貴子
 e-mail: iio@artm.pref.hyogo.jp
 いずれも、TEL: 078-262-0909 (学芸直通)
 FAX: 078-262-0913

【同時開催の展覧会】

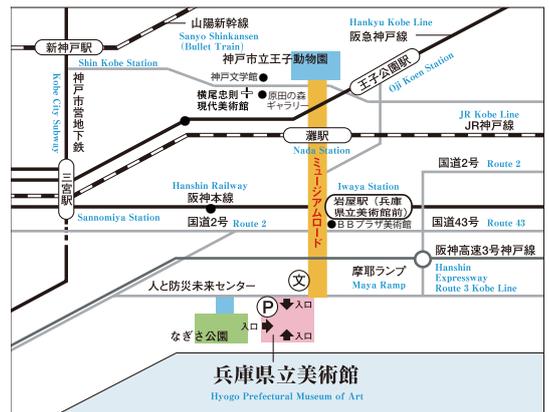
大エルミタージュ美術館展 オールドマスター 西洋絵画の巨匠たち
 10月3日(火)～2018年1月14日(日)

【交通案内】

- ・ 阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分
 - ・ JR神戸線灘駅南口から南に徒歩10分
 - ・ 阪急王子公園駅西口から南西に徒歩約20分
 - ・ JR三ノ宮駅南から神戸市バス(29、101系統)阪神バスにて約15分
HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ
 - ・ 地下駐車場(乗用車80台収容・有料)
- *ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください
 *団体バスでお越しの場合は、バス待機所のご予約をお願いします。

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。末尾の「申込書」をご使用ください。

- 作品画像を媒体掲載される際には、「申込書」に記載の作家名・作品名・制作年などを必ず入れてください。
- 作品画像は全図で使用してください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・変更はできません。
- 画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません(会期終了まで)。
- 再放送、転載など二次使用をされる場合には、別途申請いただきますようお願いいたします。
- Webサイトに掲載する場合は必ずコピーガードを施してください。
- 基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で「営業・広報グループ」までお送り願います。
- 展覧会場の取材、撮影をご希望の場合についても、「営業・広報グループ」までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。
- 本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)、URLなどを、「営業・広報グループ」宛てに、1部お送りくださいますようお願いいたします。



広報画像申込書

県美プレミアム 2017年10月28日[土]—2018年1月21日[日]

小企画「JAPAN KOBE ZERO の軌跡」 特集「絵画のふしぎ～県美・絵画・名品選～」

※ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データをお送りいたします。

1	《白布 400 m ² 》1972年
2	《TREE, out-in-out》1975年 兵庫県立近代美術館にて
3	《まっこうくじら》1975年 神奈川県民ギャラリーにて
4	榎倉康二 《Figure-No.35》1984（昭和59）年
5	神中糸子 《はるの像》1894（明治27）年頃
6	小林清親 《川口銅釜製造図》1879（明治12）年
7	鴨居玲 《トランプ》1969（昭和44）年
8	佐伯祐三 《神戸風景》1927（昭和2）年
9	池田永治 《まど》1934（昭和9）年
10	白髪一雄 《猪狩（弐）》1963（昭和38）年
11	山口勝弘 《ヴィトリヌ 「静かな街」》1956（昭和31）年
12	斎藤智 《無題 75-B》1975（昭和50）年
13	金山平三 《女の肖像》1932（昭和7）年

※上記の画像を媒体掲載される際には、前頁「広報用画像について留意事項」をご一読ください。

●貴媒体についてお知らせください。

○貴社名：

○媒体名：

（新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・ウェブサイト・その他）

○ご担当者名：

○メールアドレス：

ご連絡先 ○電話番号：

○FAX 番号：

○ご住所： 〒

○URL：

○掲載・放送予定日：

○画像到着希望日：

○読者・視聴者プレゼント用招待券：

組

名 様分を希望

（最大5組10名まで。本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです）